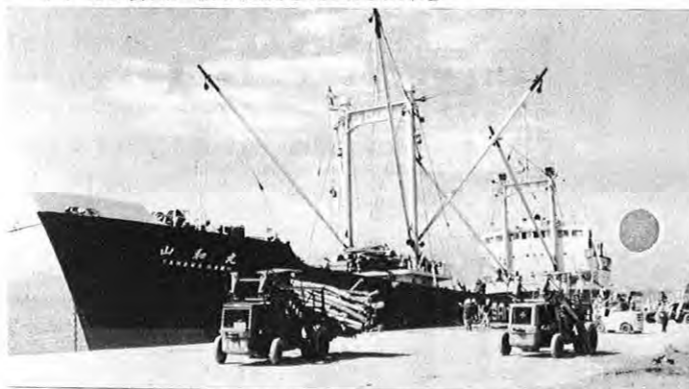


工場建設協定・公害防止協定調印ラッシュ



▲本田技研工業は菊池郡大津町に工場建設することを正式に調印

▼YKK吉田工業が進出した八代市外港



▼三井アルミニウム工業公害防止協定に調印



このところ、県内には進出企業の工場立地が相次いでいます。これに伴いその企業と地元市町村及び県との間に、工場建設に関する協定書や公害防止協定の調印が行われました。九月四日の立石電機の阿蘇工場、九月十三日の三井アルミニウム工業の荒尾市四山地先埋立地に建設する工場（建設時期昭和四十八年九月、操業開始昭和五十一年一月、従業員増二百六十六人）、十月四日のYKK吉田工業の八代市新港町地区の県開発工業用地に建設するアルミ建材九州工場（第一期工事完了昭和四十九年八月、操業九月、就業人員七百五十人、建設敷地三十四万平方メートル）、十月十一日の本田技研工業の菊池郡大津町に建設する二輪車エンジン、完成車、四輪車エンジンの製造工場（着工昭和四十九年二月、操業開始昭和四十九年十二月、従業員数当初千人、五十五年時五千人、用地面積百八十五万平方メートル）の調印です。県ではこれら企業の誘致にあたっては公害などいろいろな点に注意を払って厳選して誘致しております。

今日・明日の熊本経済

安藤 正



熊本県経済はここ十年間に従来の農業主体の体質から次第に商工業とての性格を強めてきていることは周知のところである。因みに昭和三十五年と四十五年度の県内純生産の部門別構成とみると第一次産業のウェイトが三〇％から一七・三％（全国の場合四十五年七・五％）に低下、かわって製造業を中心とする第二次産業が一九・一％から二一・三％（全国同三七・九％）（また卸・小売、サービス業等第三次産業は五〇・九％から六一・四％（全国同五四・六％）へそれぞれ比重増大をみている。またこの間、当県経済の実質成長率は全国の伸び、（年平均一〇・九％）には及ばないものの、七、九％と底固い伸びを示している。

しかしながら、当県の経済力を全国との対比でみれば約二％、人口は約一、六％を占めているのに対し、県内純生産額は六千二百億円と全国の一、一％、一人当たり県民個人所得は三十八万三千円で、全国平均の七割強（いずれも昭和四十五年度）にとどまっており、いまだ全国比なお低位にあることは否定できない。もっとも前記の全国比較は統計の制約上昭和四十五年度計に基づくものであり、最近の動きをみるとここ二、三年の間に熊本新空港の開港、他県に先駆けの九州縦貫自動車道の建設など道路交通網の整備、あるいは有明・八代工業地帯の造成など産業基盤の拡充が急速に進展する一方、多数の弱電、繊維関係企業をはじめ男子雇用の大企業である日立造船の操業開始をみるなど、産業構造近代化への変貌も、着実、かつ、スピーディに進捗している。また農業を中心とする第一次産業をみても構造改善事業の拡充等から生産性も次第に高まってきていることなどを考え合わせると、最近時における熊本経済の成長と充実が当県開關以来のものといえるのではあるまいか。

県に優るものを持っており、秘めたる力や計り知れないといっても過言ではあるまい。七万四千平方キロメートルに及ぶ広大な土地は現状かなり開発、活用されているとはいえず、なお、相当の余力を擁しており、土地不足が地域開発の阻害要因となることは当面考えられず、また経済活動に必要な若手を中心とした労働力は労働力供給として相対的になお豊富といつてよい。さらには日本三大急流の一つ球磨川、あるいは水前寺公園の清浄な湧水に代表される如く、水資源にも恵まれていることなど、産業発展の要素は総て兼ね備えている。とくに緑と太陽に恵まれ、清浄な空気に包まれた熊本という土地柄は、食料供給基地としてのみならず、人間が人間らしい生活を営むうえでの自然的条件を完備しているといえよう。

他方産業振興の潤滑油である金融面をみても民間金融機関の資金量増大テンポはこの十年間に九州地区平均を上回る五、四倍に増加、しかも地元金融機関をはじめとして各金融機関とも地元産業に対する優先応需の姿勢を次第に強めていること等からみて、差し当たっては金融が企業活動活性化の大きな制約要因になるとは思われない。もっとも開発資金等は民間金融機関のベースに乗り難いものが少なくなく、引続き財政資金並びに開銀等政府系金融機関からの資金導入パイプを大きくしてゆくことが肝要であることはいうまでもない。

ひるがえって、県民意識調査（昭和四十六年十一月実施、結果の一端をかがうと、熊本が「住みよいところ」、「まあまあ」とする人が合わせて九四％の多きに達しており、また、社会資本の充実や産業基盤開発等のための道路建設等公共事業推進のため「進んで」、あるいは「他人に追随して」協力するという人が七六％に及ぶなど、県民の積極的な協力姿勢ないし愛県意識は極めて強い。大型船が方向を転換する際は大きく弧を描く、それだけに、その動きははたに緩慢に写るかもしれない。熊本県政はいま新たな発展期を迎え、しかも単に高度工業化を狙った先進県としてだけでなく、自然環境を生かしたユニークな近代県ともいふべき方向に大きく旋回しはじめている。船首を目標に向けエンジン全開で進んだとき、内包するエネルギーの燃焼とも相俟ち、熊本の飛躍的發展は期して待つべきものがある。

金融の一翼を担うもの一人として微力ながら県経済の発展に尽力することは勿論、一県民として県勢のバランスのとれた躍進を願わずにはおられない。

日本銀行熊本支店長